

事例発表「地域包括ケアシステム構築に向けた取組」

丸亀市地域包括支援センター 奥村登士美

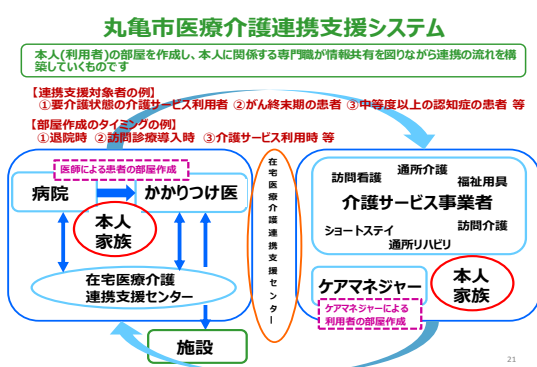
本フォーラムにおいて、本市の地域包括ケアシステム構築に向けた取組の1つである、ICT活用による多職種連携の推進について報告を行った。

本市が目指す地域包括ケアは、「住み慣れた地域や本人が望む場でできる限り自立した生活を送り、たとえ介護や療養が必要となっても、安心して自分らしい生活を継続することができる」とし、そのための地域包括ケアシステム構築の1つとして、医療や介護が必要になっても可能な限り在宅で生活できる仕組みづくりを目標としている。この仕組みづくりを行っていくために「多職種連携の推進」が重要であると考えながら、医療介護連携の現状・課題として、①医療と介護の専門職の連携が取りにくい②医療・介護・施設サービスの情報共有が不十分である③高齢者主体の連携体制の構築が必要であるという3点が検討され、ICT活用による多職種間の情報共有、連携推進に取組むことになった。

本市では、クラウドシステムを活用した情報連携システムを活用し、丸亀市医療介護連携支援システム（まんでネット）を構築している（下図）。まんでネットは、連携支援対象者本人の部屋をインターネット上に作成し、本人に関係する専門職がインターネットに接続される端末（パソコン・スマートフォン・タブレット等）で情報共有を図りながら、連携の流れを構築していくものである。セキュリティについては、システムが厚生労働省及び総務省のガイドラインに準拠して運用されていること、システム利用に必要なIDとパスワードは、事業者ではなく個人に発行し、本市が作成した「医療介護連携システム利用における個人情報の適切な取扱いの手引き」に基づき、システムを利用する関係者に対し、個人情報の取扱いに関する誓約書とシステム登録依頼書の提出を行っている。

まんでネットは、多職種連携の有効なツールであるが、活用を推進していくためには顔の見える関係づくりが必要である。多職種研修会において意見交換を行い、それぞれの専門職の視点での「生活」「変化」の情報共有ができると、本人を中心にしたより良い支援につながることを、また業務においてメリットがあることを確認し、まんでネットで情報共有が行われている（下図）。

本市におけるICT利活用の効果及び成果として、①導入時や運用時の医師会の積極的な関わりと医師会内での協力体制の構築②多職種のスムーズな情報発信による医療介護連携体制の構築③在宅での看取りの対応において、有機的な連携の増加の3点が挙げられる。また、今後の課題として①多職種連携ツールとして多くの専門職に利活用されるための普及啓発②顔の見える関係づくりを基盤に、業務に役立つという視点を持ち考えることができる専門職の増加③効果的な運用のためのID登録者の増加④運用においての利用者の資質向上⑤市単独ではなく、医療圏や県全体での統一したツールの検討の5点が挙げられる。（以上）



| まんでネットで行われている情報共有 | |
|--|----------------------------------|
| それぞれの専門職の視点でのコメントを投稿することで、情報共有意見交換ができ、多職種の連携につながっている | |
| 主な投稿内容 | |
| 医師 | 主治医意見書、診療情報、訪問看護指示書の添付、処置の指示等 |
| 訪問看護師 | 訪問看護記録（SOAP他）、身体状況の写真添付等 |
| リハビリ職 | リハビリ報告、ケアマネジャーや福祉用具関係者への環境改善の提案等 |
| ケアマネジャー | サービス内容の確認、サービス担当者会議の日程調整、照会、報告等 |
| 通所サービス | サービス利用時の状況、体調変化等 |
| 訪問介護 | 生活状況、本人の様子、体調の変化等 |
| 施設 | ショートステイ利用時の状況等 |